

「謎多き継体天皇と今城塚古墳を訪ねる」

歴史文化クラブ6月研修会

6月25日(火)晴、茨木市と高槻市にまたがる古代三島の地に継体天皇とその陵墓「大田茶白山古墳」と「今城塚古墳」を訪ねました。

高の原駅に26名が集合。マイクロバスで出発。車中で、岩本先生のオリエンテーション「継体天皇とその時代」の講義が約一時間あり、ちょうど終わるころに「大田茶白山古墳」に到着しました。

ここは宮内庁が「第26代継体天皇三島藍野陵」に指定しています。周濠を含め全長320mの堂々とした佇まいは、天皇陵の風格を感じさせます。



《継体天皇陵 太田茶白山古墳》

続いて、番山古墳(帆立貝式古墳：三島地域の首長の墓)を見学。この地点から、阿武山古墳(藤原鎌足墓)・大田茶白山古墳・埴輪工房・淀川流域を遠望し、三島野の古代の景観を確認しました。

「新池ハニワ工場公園」は5世紀から1世紀以上の間、埴輪を作成し続けた我が国最大級の埴輪製作工場跡で、高槻市が登り窯・建物・埴輪を復元展示し歴史公園として整備したもので、古代の息吹が伝わって見応えがあります。特に、狩猟の形象埴輪(猪・猟犬・狩人)は印象的でした。

午前11時、目的地の今城塚古墳公園と高槻市立古代歴史館に到着。待受けていただいた「高槻市文化財スタッフの会」の佐伯さんの絶妙の説明に導かれて約3時間、参加者はそれぞれに「謎多き継体天皇の世界」の探訪に取り組みました。

まず「卑弥呼の時代3世紀の安満宮山古墳と清龍3年の銘の鏡」、「阿武山古墳：藤原鎌足の墓」の説明。次いで、メインテーマである継体天皇と今城塚古墳について、詳しく解説頂きました。

今城塚は、名前のお通り戦国時代には砦となり、さらに文禄5年の伏見地震で墳丘と石室が破壊されており、高槻藩は幕府に当藩には天皇陵は無いと報告したため、大田茶白山古墳が継体天皇陵に治定されたこと。お蔭で今城塚は墳丘部にも自由に立ち入れたし、学術的な発掘もされて数々の貴重な成果がえられたとのこと。整備されるまでは、近隣の人々の耕作地と遊び場とし利用され、出土した埴輪のカケラは採り放題だった・・・、等々現地ならではの説明でした。

昼食のあと、古墳外周の埴輪(約1000本)や当時を再現した祭祀埴輪(約2百体の象形埴輪)を、実際に手に触れて体感。その後、地震跡の残る後円部から前方部、造出部まで踏査しました。

帰路のバスの中では、「埴輪」について坂東さんより解説があり、一寸した埴輪通になられた方もあったはず。15時40分、近鉄高の原にて解散。

さらに有志は、某所で岩本先生を囲んで、歴史談義の花が咲かせたとのことです。



《今城塚古墳埴輪祭祀場の復元》

最後に「継体天皇と今城塚の謎」テーマとした論文・解説書・小説が多数ありますので、今回の研修会が、古代の三島や継体天皇について勉強していただく切っ掛けになるなら望外の幸せです。

(西 慎二郎)